

# たんぽぽ通信

Vol. 4 2009年11月10日発行 たんぽぽ薬局西新井5丁目店

気温が下がり、肌が乾燥してかゆみが出る季節がやってきました。

かゆみは皮膚が乾燥して起こる症状の一つです。その乾燥を防ぐのにヒルドイドソフトやプロペト等の保湿剤がよく使用されます。元気な皮膚には一番外側の層(角層)のバリア機能があり、水分の蒸発や外からの刺激を防いでいます。しかし、皮脂、天然保湿因子、角質細胞間脂質といった物質が不足して皮膚が乾燥した状態になると、角層がはがれてきて隙間ができ、外からの刺激をうけやすくなります。保湿剤は、皮膚の水分が逃げないように隙間にふたをしたり、皮膚に水分を与えたりする役割を持っています。

## 保湿剤の塗り方

入浴後5分以内に塗ると効果的です  
手のひらを使ってやさしく丁寧に塗ります  
寒い時期には保湿軟膏は暖めて使います  
アトピー体質の方は季節に関係なく続けましょう



## 薬局からのお話 第4話

「皮膚科で今回はクリームが出たのですか、この前は軟膏でした。どう違うのでしょうか？」

クリーム剤は、軟膏ほどべたつきがなく、塗布した際の感じが良く、皮膚への浸透性が良く、洗い落としやすいという利点があります。水虫の治療薬など慢性化して皮膚が厚くなった湿疹・硬くなった痒疹等に効果的です。

しかし、びらんや潰瘍で出来たじくじくした患部には適さないという欠点があります。

軟膏剤は、べたべたして洗い落としにくい欠点がありますが、刺激が少なく患部を保護し、あらゆる状態の皮膚に使用できます。特にアトピー性皮膚炎や、皮脂欠乏性皮膚炎などかさかさした肌に適しています。

皮膚科では、患部の状態にあわせて軟膏とクリームを使い分け、薬が出されます。医師の指示に従って、適量を患部に塗布することで効果が出ます。塗り方や量が分からないときは、医師または薬剤師にお尋ねください。



## たんぽぽ通信からのお知らせ

ご質問、ご意見などございましたら是非お近くのエムトゥエムの調剤薬局にお立ち寄りいただき、ご相談ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

